

## 国外実態調査報告書

---

テーマ : 芸術のまちパリを訪れる  
ゼミ名 : 小林 佐江子 ゼミ  
調査日 : 2024 年 8 月 22 日 (木) ~ 2024 年 8 月 27 日 (火)  
調査先 : 【パリ】ルーヴル美術館、オルセー美術館、ピカソ美術館、  
サント・シャペルその他  
授業科目名 : 国際教養演習 I  
参加学生数 : 1 名 (3 年生)

### 調査の趣旨 (目的)

本ゼミでは、春学期にパリという都市自体のブランド力、「芸術の街」「モードの中心地」といったポジティブなイメージがどのように形成されたか、またその伝播に果たした言葉の役割を学んでいる。パリ研修の目的は、ガロ・ロマン時代の遺跡から現代まで代表的な建築物をおとずれ、パリという町の形成過程を理解することと、美術館の所蔵作品や衣装を実際に鑑賞することで、授業で学んだことをより深く理解することである。また、秋学期に執筆するレポートの個別研究も行う。

### 調査結果

美術作品については、まずルノワールやユトリロ等の共同アトリエであったモンマルトル美術館を訪問し、「エコール・ド・パリ」の美術作品を鑑賞した。ルーヴル美術館やオルセー美術館、ポンピドゥーセンターでは、授業で学んだ美術作品を実際に鑑賞し、古代から現代までの美術史を理解することができた。ピカソ美術館では、ピカソの作品の変遷を理解するとともに、とりわけピカソが参照した古典作品との比較をおこなった。いずれも、所蔵作品だけでなく、美術館それ自体が鑑賞の対象でもあり、サント・シャペル教会、修復中のノートル・ダム大聖堂、サン・ポール教会、サクレ・クール、サン・ジェルマン・デプレ教会、マドレーヌ寺院などの教会の建築、凱旋門等のモニュメントや、古代ローマ時代の遺跡から中世の街並み、そしてオスマン時代の建築と合わせ建築の様式の違いを理解し、街の歴史についても学ぶことができた。また、授業では、ファッション史についても学んだが、イヴ・サン・ローランのアトリエであった博物館と展覧会も訪れ、当時の貴重な作品を見ることができた。そうじて、授業で学んだ美術作品や建築物、都市計画について実物を見ることができた意義は大きい。しかしながら、各美術館の訪問時間が 5~6 時間と予定よりも長くかかったため、クリュニー中世国立美術館の訪問は叶わなかった。参加者は、調査結果に基づき、秋学期にモネの連作について口頭発表とレポートを執筆する予定である。